

平成22年度 学校経営の改革方針

三重県立相可高等学校

I 目指す学校像（基本理念）

○「生徒の夢をかなえ、地域と共に歩む学校」

生徒が、自己の進路実現を図るとともに、地域と連携した取り組みを行うなかで地域の活性化にも貢献し、地域から信頼される学校を目指します。

○「生徒が向上心を持って自発的に勉学等に取り組む学校」

生徒が、自らの進路実現を目指して、主体的に勉学や資格取得等に取り組む学校を目指します。

○「明るくさわやかで活気あふれる学校」

生徒が、日々の学校生活や地域との協働を通して基本的な生活習慣を身につけ、地域から信頼される学校を目指します。

II 現状と課題

- 1 地域と共に歩む学校を基本理念にして、地元の自治体・教育機関・福祉施設・企業等と連携し、「地域に開かれた学校づくり」、「地域になくてはならない学校」づくりに取り組んでいる。今後も専門学科や部活動等の活動を中心に、より一層本校と地域の活性化のため取り組んでいきたい。
- 2 生徒が向上心を持って自ら学ぶ習慣をつくるため家庭学習の定着に努めているが、現状では十分な成果が得られていない。今後も引き続き、進路目標を達成する学力を身につけるよう、授業内容の充実と家庭学習の定着を図っていく必要がある。専門学科では学科の特性を活かした資格取得に取り組んでおり、今後とも内容の一層の充実を図っていききたい。また、統合高校として学校の特色化を図るため、普通科と専門学科共通の選択科目を設けるなど、多様なニーズに応えられる教育課程の実施に向けて取り組みたい。
- 3 「地域から信頼される学校」「明るく爽やかな学校」を目指し、挨拶の励行や身だしなみ指導、遅刻防止等に取り組んでいる。教職員や生徒たちによる朝の校門前での「声かけ運動」や、部活動等の生徒たちの元気のいい挨拶などの影響もあり、来客等への挨拶も自然にできる生徒が増えきた。身だしなみ等でも大部分の生徒は高校生らしい姿で登校している。地域の信頼を得るため、引き続き、全職員で統一した指導に当たっていききたい。

III 中長期的な重点目標

（教科指導）

- 1 自ら学び、自ら考える力をつけ、進路目標を達成できる学力を身につけるよう、日々の授業の充実と家庭学習の定着を図ります。
- 2 各種研修会への参加、公開授業等を通じて、教職員個々が「授業力」を向上させ、わかる授業を展開します。
- 3 専門学科を中心に、専門的な技術の習得や資格の取得に取り組めます。

（生徒指導）

- 1 地域から信頼される「規律ある学校」、「明るく爽やかな学校」を目指し、挨拶の励行、身だしなみ指導、遅刻防止などの基本的な生活習慣の育成に全教職員で取り組みます。

(組織能力の向上)

- 1 教職員一人ひとりの自己実現や能力開発に係る現状やニーズを把握し、教職員が目指す学校像の実現に向けて、意欲的に取り組めるようにします。
- 2 教職員一人ひとりが自らの能力を十分発揮するとともに、各分掌、学年等が互いに連携・協力し、組織としての能力を高めます。
- 3 生徒実態調査の結果を分析し、課題やニーズ等に対応していきます。

IV 本年度の行動計画

(教科指導)

1 家庭学習の定着化を図り、主体的な学習習慣を確立させます。

- (1) 各教科において予習復習の重要性を生徒に徹底し、各教科担当から宿題（課題）を積極的に課します。
- (2) 家庭学習時間の調査を1学期と3学期に実施し、成果を検証します。

2 授業の改善に努め、「わかる授業」を実施します。

- (1) 授業に係る生徒の理解度を実施し、授業を理解できる生徒の割合70%以上を目指します。

3 資格取得に積極的に取り組みます。

- (1) 専門学科に於いて、卒業までに一人につき3種類以上の資格取得を目指します。

(生徒指導)

1 朝の登校指導のなかで挨拶の励行と身だしなみ指導を実施し、「明るくさわやかで活気あふれる学校」づくりを進めます

- (1) 朝の登校指導で教職員・生徒による「声かけ運動」を実施します。
- (2) 生徒にアンケート調査を実施し、「自分から挨拶ができる」、「学校の規律が守られている」の項目で共に70%以上を目指します。

(組織能力の向上)

1 教職員満足度調査等を行い、現状やニーズを把握し、対応を行います。

- (1) 教職員の現状やニーズを的確に捉えるため教職員満足度調査を行います。
- (2) 満足度調査の結果を解析し、対応を行います。

2 各分掌、学年等が互いに連携・協力し、組織としての能力を高めます。。

- (1) 各学年と生徒指導部、進路指導部等が連絡を密にして生徒の指導に当たります。

(2) OJT などを通して、教職員一人ひとりが意欲を持って学校運営に取り組めるようにします。

3 生徒実態調査の結果を分析し、課題やニーズ等に対応していきます。

(1) 生徒実態調査を年2回実施します。

(2) 実態調査の結果を分析し、速やかに対応していきます。